



蜷江神社の境内にある「御蛸様(おつぶさま)池」。現在は水が枯れてしまっている。左上の写真は神社に奉納されたタニシの像。



蜷江神社

伝説と歴史の舞台を歩く

DATA 守山市
 ● 歩行距離▶約2km
 ● 歩行時間▶約40分

野洲川の水害からご神体を守った御蛸様

台風シーズンで大雨の多い季節。野洲川は古くから、近江太郎と呼ばれる暴れ川で、流域はたびたび洪水による被害にみまわれた。特に南流と北流が分かれる下流域は堤防決壊による被害が多く、河川の改修は地域住民の祈願だった。昭和54(1979)年に野洲川の放水路を建設する大改修工事が完成し、現在の姿になったという。

これを記念して整備された野洲川改修記念公園のすぐ近く、守山市笠原に蜷江神社がある。蛸とはタニシのことらしい。実はこの神社、野洲川の水害の歴史と大きく関わっている。
 享保6(1721)年の洪水で笠原の堤が切れ、社殿ごとご神体が流されそうになっ

笠原桜公園として知られる野洲川の堤防脇に水災記念碑がある。大正2(1913)年10月3日、この場所で堤防が決壊し、未曾有の被害をもたらした。過去の災害を忘れないように、そして二度と悲惨な歴史を繰り返さないために、石碑にはその被害の詳細が刻まれている。



水災記念碑

た時、上流から多くのタニシが付着した御神輿が流れてきて社前に止まり、幸いにもご神体は流失の難を免れた。これは神様の使いに違いないと村人はタニシに感謝し、境内にタニシを保護する池を掘り、食用であったタニシも食べることを絶つて、おつぶさまと崇めるようになった。

池は現在も境内に残っているが、野洲川の改修工事でも流は廃川となり、皮肉にも池の水が枯れてしまったという。今はその由緒を記した石碑が池畔にある。
 野洲川の堤防を散策しながら、ともすると忘れそうになる身近な水害の記憶を心にとどめておきたい。

モデルコース
 守山北高前バス停 5分 ▶ 蜷江神社 2分 ▶ 野洲川改修記念公園 7分 ▶ 水災記念碑 7分 ▶ 野洲川改修記念公園 10分 ▶ 笠原バス停

※JR守山駅からバス(ピグレイクライン)で「守山北高前」まで左回りは21分(右回りは36分)
 ※移動時間はあくまでも目安です。

“Walk on”とは
 「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分であいてみてはいかがでしょうか。

バックナンバーをKEIBUNホームページ「湖国滋賀ウォーキングマップ」で公開中!
<http://www.keibun.co.jp>